教科書における国際教育関連記載事項抜き出しリスト

社会・歴史的分野

⇒歴史的な見方・考え方：社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること
当教科書の分類：1．時期や年代　2．推移　3．比較　4．相互の関連　5．現在とのつながり

●：教科書記載のトピックが主に当てはまる分類（一つのトピックにつき一つのみ）
○：教科書記載のトピックが関連のある付随的分類（一つのトピックに何もつかない場合もあれば、複数つく場合もある）

※教科書記載事項の列の【】内は、その抜き出したトピックが当てはまる「国際理解教育の実践的枠組み」の分類を表す。その中で下線がついているものが主な分類、下線がないものは付随的な分類となる。

学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
							1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
巻頭			持続可能な社会の実現に向けて（歴史に学ぶ）平和の礎の写真と説明(巻頭3)【C-3平和、C-1人権】			・平和の礎の写真						○		●									
A 歴史との対話																							
(1) 私たちと歴史																							
(2) 身近な地域の歴史																							
B　近世までの日本とアジア																							
(1) 古代までの日本		（P.18-P.61） 第2章　古代までの日本			1．政治、国際関係、文化の点について、どのような人物が重要な役割を果たしたか考え、最も重要だと思う人物を挙げる。 2．人物名と選んだ理由をくらげ型のチャートに書き込む。 3．くらげチャートをグループで意見交換する 4．古代のキーパーソンをグループで一人選ぶ。 5．クラスで発表する。 6．発表などを基に、古代がどのような時代かまとめる。																	
ア 知識の習得 (ｱ) 世界の古代文明や宗教のおこり 世界の各地で文明が築かれたことを理解する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともいに大きく捉えさせる。	(P.20-P.29) 1節　世界の古代文明と宗教のおこり	仏教、キリスト教、イスラム教のおこり及び広がりの説明(P.28-29)　【A-1文化理解、D-1歴史認識】			・三大宗教の寺院と礼拝の場所（バガン、ノートルダム大聖堂、イマームモスクの写真） ・釈迦像の写真 ・ポロブドゥール遺跡の写真 ・カーバ神殿の写真 ・十字架にかけられたイエスの絵 ・エルサレムの写真 ・宗教のおこり・広がりの世界地図	●								○							
(ｲ)古代の文化と東アジアとの関わり 仏教、仮名文字など国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する	国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるようにする。 仏教の伝来とその影響については、大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付く。	(P.35-P.51) 3節　古代国家の歩みと東アジア世界	日本で最初の仏教文化を飛鳥文化という。飛鳥地方とその周辺に作られた寺は、主に朝鮮半島からの渡来人やその子孫によって造られ、南北朝時代の中国や、さらに西アジア・インドの文化の影響がみられる。(P.37) （もっと歴史）朝貢関係を通じて漢字や仏教などが東アジアに広まり、共通の文化を持つ東アジア世界が形成され、周辺諸国は中国を手本にした国家体制を整えた(P.90)【D-1歴史認識、A-1文化理解】	比較		・中国の石仏と法隆寺の釈迦三尊像の比較の写真 ・韓国の金銅仏と広隆寺の弥勒菩薩像の比較の写真	○								●							
イ 表現力等の習得 (ｱ) 思考力・判断力・表現力等 古代文明や宗教のおこり、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化を多面的・多角的に表現し、考察する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。																						
(2) 中世の日本																							
(3) 近世の日本														●		○							
C 近現代の日本と世界																							
(1) 近代の日本と世界		（P.206-P.249） 第６章　二度の世界大戦と日本			1．グループで「第一次世界大戦の背景と特色」「日本と世界のターニングポイント」「第二次世界大戦の背景と特色」をまとめる 2．出来事を起こった順に矢印でつなぐ「ステップチャート」を作り、二つの大戦とその間の出来事の順序や推移を整理する 3・ステップチャートをグループで発表、共有する 4．ステップチャートのうちどれが「戦争へのターニングポイント」だったかグループで話し合う。世界と日本の出来事からターニングポイントを一つずつ選ぶ。 5．クラスで発表する 6．ワークシートと意見交換を基に、この時代の特色をまとめる。																	
ア 知識の習得 (ｳ)第二次世界大戦と人類への惨禍 昭和初期から大事に世界大戦の就活までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きなどをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する	第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、対戦が人類全体に参加を及ぼしたことを理解する。 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると気付かせる。	(P.232-P.239) 4節　第二次世界大戦と日本	日本は「大東亜共栄圏」の建設を唱えて東南アジアに武力による南進をはじめた(P.234) 日本が南進を行う中で、日米関係は悪化し、日本は侵略的な行動を止めず、アメリカ等は日本を経済的に封鎖した(P.234) 日本軍はハワイの真珠湾を奇襲攻撃・マレー半島に上陸し、太平洋戦争が始まった(P.235) 【D-1歴史認識】	推移		・リトアニア日本領事館領事代理の杉原千畝がポーランドから逃れるユダヤ人にビザを書き続け、約6,000人の命を救った。 ・太平洋戦争に関係する地域・攻撃進路の地図								●							
イ 表現力等の習得 (ｲ) 思考力・判断力・表現力等 政治や社会の変化、外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する	世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国の国民が大きな戦火を被ったことなどから、「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」に気づく。																						

学習指導要領		学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
								1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
(2) 現代の日本と世界			（P250-P.283） 第７章　現代の日本と私たち）			1，第二次世界大戦後の出来事から、現在の世界や日本に大きな影響をあたえたものをグループで話し合う。 2，特に日本への影響が大きいもの6つを選び、影響が大きいと考える順に「ピラミッドランキング」に順位付けする。 3，ランキングの理由。それらの出来事が影響した結果、現在の日本はどのような姿になったか考える 4，ランキングをグループで話し合う。 5，ランキングと３．の考えを、４に基づいて修正する。 6，これからの日本はどうあるべきか、私たちに何ができるかをまとめる。																		
ア 知識・技能の習得	(ｱ) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 我が国の民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する	冷戦、我が国との民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解する	(P.256-P.265) 2節　冷戦と日本の発展	国際連合の創設と国際協調、冷戦の始まり(P.256)【C-3平和】 ・発展途上国と先進工業国との経済格差の問題（南北問題）(P.257)【C-4開発】	推移		・アジア・アフリカの独立国の地図 ・国際連合本部の写真、国際連盟・国際連合の比較表								●	●								
	(ｲ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応を取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させる。	（P266-P.271） 3節　新たな時代の日本と世界	サミット、EU、APECなど国際協調、地域協力の枠組の創設(P.266)【B-1相互依存】 ユーゴスラビア紛争、クウェート侵攻、アメリカ同時多発テロなど地域紛争や、国連の平和維持活動、非政府組織について(P.267) 【C-3平和】【C-開発】 グローバル化と地球全体の問題、持続可能な社会(P.270)【C-2環境】	相互の関連		・ユーロ通貨の写真 ・ユーゴスラビア紛争の写真 ・アメリカ同時多発テロの写真 ・地球温暖化防止京都会議の写真 ・SDGsの17のグローバル目標の図				●		●	●	○								
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｱ) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の要するを多面的・多角的に考察し、表現する	国際社会への復帰については、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを扱う。																						
	(ｲ) 歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する	国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国取を超えた地域統合、地球環境問題とのその取組など様々な課題が存在していることとともに、解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気づく。 歴史の内容と私たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心を持つことができるように工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できるようにし、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことが出来るようにする。 歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付く。	(p.242) もっと歴史　オリンピック・パラリンピックと日本	オリンピック・パラリンピックと日本(P.242)【A-2文化交流】 平和や国際協調という精神をかかげているにもかかわらず、ときに国際政治にほんろうされた(P.243)【C-3平和】【D-1歴史認識】			・オリンピックの写真		●					●		○							
特集				地域の歴史を調べよう－４ 多文化共生都市・神戸 神戸は海外に由来する建物が作られている地域であることを学ぶ(P.200-P201)【A-3多文化共生、A-1文化理解】	比較		・ドイツ人貿易商の住宅、アメリカの領事館、春節の写真 ・神戸の地図と海外に由来する建物の情報		○		●													

教科書における国際教育関連記載事項抜き出しリスト

社会・歴史的分野

⇒歴史的な見方・考え方：社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること
当教科書の分類：1．時系列　2．推移　3．比較　4．つながり

※教科書記載事項の列の【】内は、その抜き出したトピックが当てはまる「国際理解教育の実践的枠組み」の分類を表す。その中で下線がついているものが主な分類、下線がないものは付随的な分類となる。

学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）国際協力・援助
							1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	
A 歴史との対話																							
(1) 私たちと歴史																							
(2) 身近な地域の歴史																							
B　近世までの日本とアジア																							
(1) 古代までの日本		(P.14-P.63) 第２編　古代までの日本と世界			・地図を使って、古代の日本の政治の中心地とその移り変わり、古代のつながりの深い国を確認し、日本はそれらの国とどのような関係を築いていたか説明する。 ・「文字の変化」に着目して表をまとめ、古代までの特色をまとめる。																		
ア 知識の習得 (ｱ) 世界の古代文明や宗教のおこり 世界の各地で文明が築かれたことを理解する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともいに大きく捉えさせる。	(P.18-P.27) 1 人類の始まりと文明	P26 宗教のおこり、三大宗教【A-1文化理解、D-1歴史認識】	2．推移		・三大宗教に関連する写真（アンコールワット、キリスト教の祭り、カーバ神殿、釈迦、イエス、モスク） ・主な宗教がおこった地域の地図と年代	●									○							
(ｲ)古代の文化と東アジアとの関わり 仏教、仮名文字など国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する	国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるようにする。 仏教の伝来とその影響については、大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付く。	(P.28-P.43) 2 日本列島の人々と国家の形成	・P41　6世紀半ばに百済から仏教が伝えられた。7世紀初めには、主に南北朝時代の中国の文化が朝鮮を通じて伝えられた。仏教は病気を治したり先祖の冥福を祈ったりするための新しい宗教と考えられていた。インド、ギリシャなどの文化の影響も見られた。留学生や留学僧が唐から帰国してくると、唐の文化の影響が強くなった。 【D-1歴史認識、A-1文化理解】	3．比較 4．つながり		・唐草文（ギリシャ・ローマで流行し中国をへて日本に伝わった文様） ・飛鳥時代の日本の仏像と朝鮮の仏像の写真	○									●							
イ 思考力・判断力・表現力等の習得 (ｱ) 古代文明や宗教のおこり、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化を多面的・多角的に表現し、考察する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。																						
(2) 中世の日本																							
(3) 近世の日本																							
C 近現代の日本と世界																							
(1) 近代の日本と世界		(P.220-P.259) 第５編　近代の日本と世界 第２章　二度の世界大戦と日本			・年表を使って、近代（前半）と比べ、アジアや欧米諸国との関係のちがいや共通点を考える ・「戦争」に着目して時代ごとに整理し、近代（後半）の特色を考える																		
(ｲ)第二次世界大戦と人類への惨禍 昭和初期から大事に世界大戦の就活までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きなどをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する	第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、対戦が人類全体に参加を及ぼしたことを理解する。 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると気付かせる。	(P.246-249) 4 第二次世界大戦と日本	・P248　日本が戦争遂行に必要な資源を獲得するために南進し、経済的に孤立したが日米交渉がまとまらず、アメリカ海軍基地を奇襲攻撃するとともにマレー半島に上陸を開始し、太平洋戦争が始まった【D-1歴史認識】	2．推移		・イスラエルの切手になった杉原千畝（リトアニア領事館の外交官として外務省の指示に反してユダヤ人にビザを発給した） ・日本とアメリカの1941年と1945年の比較世界地図									●							
イ 思考力・判断力・表現力等の習得 (ｱ) 政治や社会の変化、外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する	世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国の国民が大きな戦火を被ったことなどから、「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」に気づく。																						
(2) 現代の日本と世界		(P.260-P.297) 第６編　現代の日本と世界			・年表を使って、近代（後半）の「日本の動き」と比べて、諸外国との関係のちがいや共通点を考える ・「復興と成長の源」に着目し、戦後復興期と高度経済成長期の政府・企業・個人・外国の特色についてまとめる ・社会、国際関係、環境の観点から、問題点および対応と結果をまとめる ・「現代」の特色をまとめる																		

	学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）国際協力・援助
								1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	
ア 知識・技能の習得	(ア) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 我が国の民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する	冷戦、我が国との民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解する	(P.262-P.285) 2 冷戦下の世界と経済大国化する日本	・P262 第二次世界大戦後の世界と日本　日本を取り巻いていた国際環境および戦後の独立国【D-1歴史認識】 ・P274　アジア・アフリカ会議などで新興国が独自の動きを見せるとともに、脱植民地化が進んだが、新興国の中には植民地時代の経済をひきずって貧困に苦しむ国が多く、北半球に多い先進工業国との格差が問題となった。（南北問題）【C-4開発】 ・ヨーロッパ共同体、アフリカ統一機構、東南アジア諸国連合など地域協力組織の設立【B-1相互依存】 ・P283 日本が経済大国となり、アジア諸国との相互関係を深めていき、欧米中心だった日本の輸出先の比重はアジアに移った。アジア諸国には日本の経済・産業や文化への関心が高まり、留学や仕事、観光で日本にやってくるアジア系外国人が増え、文化面でも交流が盛んになった。【B-1相互依存】 【A-3多文化共生】	4．つながり		・P263国際環境と世界の独立国の地図 ・タイに進出した日本企業の自動車組み立て現場の写真			○	● ●				●	●								
	(イ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応を取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させる。	(P286-P29) 3 グローバル化と日本の課題	・P286　現代では、国境を越えた人やモノの移動が活発になり、グローバル化が進んでいる。【B-1相互依存】 ・P288　グローバル化の中の日本は、その対応や少子高齢化などの課題について、持続可能な社会保障制度が求められている。震災の発生により、ボランティア活動が注目された。【C-4開発】 ・P290　世界の中の日本として、地球環境の悪化への対応、国際NGOの取組、国連の平和維持活動への協力などが求められている。【C-4開発】 【C-2環境】【C-3平和】 ・東アジアの緊張緩和にも、日本の貢献が求められている。【C-3平和】	4．つながり		・アフガニスタンで日本のNGOが建設した用水路の写真 ・PKO協力法により初めて派遣された自衛隊の道路の舗装工事の写真			●		○	● ○	● ●				・PKO協力法により初めて派遣された自衛隊の道路の舗装工事の写真				・アフガニスタンで日本のNGOが建設した用水路の写真
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ア) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の要するを多面的・多角的に考察し、表現する	国際社会への復帰については、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを扱う。																						
	(イ) 歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する	国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国歌を超えた地域統合、地球環境問題とのその取組など様々な課題が存在していることとともに、解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気づく。 歴史の内容と私たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心を持つことができるように工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できるようにし、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことが出来るようにする。 歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付く。	(P.215) 先人に学ぶ　エルトゥールル号遭難事件	P215　エルトゥールル号遭難事件ー日本とトルコの1世紀の年月をこえた国際協力ー（1890年の和歌山県紀伊大島でのエルトゥールル号遭難と、1985年のトルコ航空機）【C-3平和】		P215　エルトゥールル号、乗組員の写真							●									

教科書における国際教育関連記載事項抜き出しリスト

社会・歴史的分野

⇒歴史的な見方・考え方：社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること

※教科書記載事項の列の【】内は、その抜き出したトピックが当てはまる「国際理解教育の実践的枠組み」の分類を表す。その中で下線がついているものが主な分類、下線がないものは付随的な分類となる。

学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
							1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
A 歴史との対話																							
(1) 私たちと歴史																							
(2) 身近な地域の歴史																							
B　近世までの日本とアジア																							
(1) 古代までの日本		(P.14-P.61) 第２章　古代までの日本			・文明が大きな川の流域で登場したのはなぜか考える。 ・どのようにしてクニが誕生したかまとめる。 ・律令の下で、政府はどのように地方をしはいしたか。 ・摂関政治において、摂政や関白はどのように政治的権力をにぎったのか説明する。																		
ア　知識の習得 (ｱ) 世界の古代文明や宗教のおこり 世界の各地で文明が築かれたことを理解する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともいに大きく捉えさせる。	(P.16-P.27) 1節　世界の諸文明	・P24　宗教のおこり、三大宗教について【A-1文化理解、D-1歴史認識】			・世界三大宗教の分布地図 ・釈迦像の写真、カーバ聖殿巡礼の写真、イェルサレムの写真、イエスの写真 ・コーランを唱える様子の動画（QRコード）	●									○							
(ｲ)古代の文化と東アジアとの関わり 仏教、仮名文字など国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する	国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるようにする。 仏教の伝来とその影響については、大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付く。	(P.36-P.49) 3節　律令国家の形成	・P37　飛鳥文化は、百済・高句麗や南北朝中国の文化の影響を強く受け、西アジア、インド、ギリシアなどとのつながりも見られる。仏教は病気の回復や祖先の死後の幸福を祈る新しい宗教として信じられた【D-1歴史認識、A-1文化理解】			・法隆寺玉虫厨子の写真 ・法隆寺金堂釈迦三尊像の写真	○									●						
イ　思考力・判断力・表現力等の習得 (ｱ) 古代文明や宗教のおこり、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化を多面的・多角的に表現し、考察する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。																						
(2) 中世の日本																							
(3) 近世の日本																							
C 近現代の日本と世界																							
(1) 近代の日本と世界		(P.212-P.253) 第６章　二つの世界大戦と日本			・第一次世界大戦と第二次世界大戦について表でまとめる・ ・国際連盟と国際連合について表でまとめ、常任理事国の共通点、ヨーロッパの国が多くアジアやアフリカの国が少ない理由を書く。 ・二つの世界大戦に関連のある場所を確認し、いつ何が行われたか、この場所が持つ意味は何かについて考える。																		
(ｵ)第二次世界大戦と人類への惨禍 昭和初期から大事に世界大戦の就活までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きなどをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する	第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、対戦が人類全体に参加を及ぼしたことを理解する。 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると気付かせる。	(P.242-P.253) 3節　第二次世界大戦と日本	・P244　日本の南方進出、日本の経済封鎖および日米交渉の決裂により、日本軍はハワイの真珠湾を奇襲攻撃し、マレー半島に上陸して太平洋戦争が始まった【D-1歴史認識】 ・P250 （地域からのアプローチ⑥）広島の原爆被害と発展【C-3平和,D-1歴史認識】			・太平洋戦争の関係地図 ・広島の被ばく地図、原爆ドーム、オバマ大統領訪問の新聞記事					●		● ○							
イ　思考力・判断力・表現力等の習得 (ｱ) 政治や社会の変化、外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する	世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国の国民が大きな戦火を被ったことなどから、「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」に気づく。																						
(2) 現代の日本と世界		(P.254-P. 283) 第７章　現代の日本と世界			・終戦直後の日本で行われた諸改革について例を挙げる。 ・冷戦下の東西対立について表にまとめる。 ・戦後の国際情勢について、ドイツ、朝鮮、二つの中国について表にまとめる。 ・冷戦下の東西で起こった戦争についてほうにまとめる。 ・今までの歴史学習を通して解決すべき問題として取り上げる内容、具体的な解決策を考える。																		

	学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材		A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択				JICA関連記載				その他（JICA以外）
									1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加		ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
ア 知識・技能の習得	(ｱ) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 我が国の民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する	冷戦、我が国との民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解する	(P.256-P.273) 1節　戦後の日本と国際社会	・P263　植民地支配の終わり 植民地が独立を目指し、アジアアフリカの各国が独立戦争を行った。【D-1歴史認識】 ・独立後も先進国と発展途上国の経済格差（南北問題）が続いている【C-4開発】 ・P266　日本の北方領土、竹島、尖閣諸島の変遷【C-3平和、D-1歴史認識】			・冷戦時代の世界の諸同盟と第二次世界大戦後の独立国の地図 ・国際連合本部の写真 ・アジア＝アフリカ会議の写真 ・北方領土、竹島、尖閣諸島の地図							●	●	● ○							
	(ｲ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応を取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させる。	(P.274-P.283) 2節　新たな時代の日本と世界	・P278　人・物・資源の国際的な移動がより活発になり、世界一体化の動きが進みグローバル化している。一方で環境問題などの課題も起こっている。【B-1相互依存】【C-4開発】 ・P279　EUなどの経済統合、ASEANなどの地域統合や、国連平和維持活動の展開、非政府組織の役割が増している。【B-1相互依存】【C-3平和】			・P278　主な地域統合、地域協力の地図 ・ASEAN首脳会議の写真 ・ユーロ通貨の写真 ・日本のPKO活動の写真 ・国境なき医師団の活動の写真				● ●			○	○			・日本のPKOの活動の写真				
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｱ) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の要するを多面的・多角的に考察し、表現する	国際社会への復帰については、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを扱う。	(P.274-P.283) 2節　新たな時代の日本と世界	・P281　グローバル化が進展する中、経済、政治、安全保障など様々な面で日本が世界でどのような役割を果たすべきかが議論されている。【C-3平和、C-4開発、B-1相互依存】			・P281 国際貢献と平和外交の例として、国連難民高等弁務官緒方貞子のルワンダ難民援助の写真					●			●	○			・国連難民高等弁務官緒方貞子のルワンダ難民援助の写真				
	(ｲ) 歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する	国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国歌を超えた地域統合、地球環境問題とのその取組など様々な課題が存在していることとともに、解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気づく。 歴史の内容と私たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心を持つことができるように工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できるようにし、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことが出来るようにする。 歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付く。																				

教科書における国際教育関連記載事項抜き出しリスト

社会・歴史的分野

⇒歴史的な見方・考え方：社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること

※教科書記載事項の列の【】内は、その抜き出したトピックが当てはまる「国際理解教育の実践的枠組み」の分類を表す。その中で下線がついているものが主な分類、下線がないものは付随的な分類となる。

学習指導要領		学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
								1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
A 歴史との対話																								
(1) 私たちと歴史																								
(2) 身近な地域の歴史																								
B　近世までの日本とアジア																								
(1) 古代までの日本			(P.35-P. 53) 第１部　原始・古代 第1章　文明のはじまりと日本列島 第2章　日本の古代国家			・いろいろな発火法を知り、火おこしの実験を行う ・遺跡や発掘されたものから、印象に残ったもの、行ってみたいところを3つ選んで理由を書く ・学んだ言葉の中から1つ選び、3つのヒントから言葉を当てるゲームをつくる ・2つ以上の言葉をグループにして、どんな関係があるか書く。グループやクラスで発表する。 ・人びとの生活や社会の様子、制度や文化の変化について印象に残ったことを書く																		
ア 知識の習得	(ｱ) 世界の古代文明や宗教のおこり 世界の各地で文明が築かれたことを理解する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともいに大きく捉えさせる。	第2章　日本の古代国家 (P.36) 宗教の広がり	・P36　世界に広がる宗教として、三大宗教の成立した地域を地図で確認する【A-1文化理解、D-1歴史認識】		・朝鮮半島や中国大陸と交流するなかで、日本列島の政治や人びとの生活は、どのように変わっていくか。	・キリスト教、イスラム教、仏教に関連する写真	●									○							
	(ｲ)古代の文化と東アジアとの関わり 仏教、仮名文字など国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する	国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるようにする。 仏教の伝来とその影響については、大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付く。	第1章　文明のはじまりと日本列島 (P. 30-P.31) (10)倭国の女王、卑弥呼ー邪馬台国ー 第2章　日本の古代国家 (P.44-P.45) (4)シルクロードの贈り物ー奈良時代の文化ー	・P31　東アジアでは、中国を中心にして、外交や文化交流が盛んになり、漢字・儒教、政治の仕組み、製鉄や絹織物などの技術がまわりの地域に大きな影響を与えた。【D-1歴史認識、A-1文化理解】 ・P44 奈良時代の大仏開眼の儀式に国外から参加者があったり、イランやインドが起源の楽器などが伝わった。【A-1文化理解】	2，推移 4，つながり		・P31　紀元前後の東アジアの地図 ・伎楽の面、バラモンの顔、酔った西アジア王、西アジアの王の家来のお面の写真	○ ●								●							
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｱ) 古代文明や宗教のおこり、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化を多面的・多角的に表現し、考察する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。																						
(2) 中世の日本																								
(3) 近世の日本																								
C 近現代の日本と世界																								
(1) 近代の日本と世界			(P.212-P. 245) 第５部　二つの世界大戦 第９章　第二次世界大戦の時代			・1930年から1945年までの日本軍の兵士の推移グラフを見て、兵士の数が増えた理由、兵士の家族の生活などについて考えを書き、グループで意見を交換する。 ・章に登場した世界と日本の子どもたちや若者の姿をすべて書き出し、印象に残ったことや考えたことを書く。 ・関連する章を振り返り、印象に残ったことを4コマ漫画で表現する。 ・日本や世界の国々は、なぜ第一次世界大戦の反省を生かせなかったのかを書き、発表する。																		
	(ｵ)第二次世界大戦と人類への惨禍 昭和初期から大事に世界大戦の就活までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きなどをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する	第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、対戦が人類全体に参加を及ぼしたことを理解する。 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると気付かせる。	(P.228-P.229) (8)東南アジアの日本軍ーアジア太平洋戦争ー	・P228 日本は東南アジアへの進出をめざし、アメリカ、イギリス、オランダなどと対立を深めた。アメリカは日本への石油輸出を禁止し中国とインドシナから撤退を要求、日本海軍はハワイ真珠湾を奇襲攻撃し、アジア太平洋戦争が始まった。【D-1歴史認識】			・アジア太平洋戦争の戦場を記載した世界地図 ・シンガポールで子ども向けに出版された日本語の絵本 ・ビルマの油田を攻撃する日本軍、鉄道工事で働かされる労務者、筑豊の炭鉱に送り込まれた朝鮮人労働者の写真									●							
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｱ) 政治や社会の変化、外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する	世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国の国民が大きな戦火を被ったことなどから、「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」に気づく。																						
(2) 現代の日本と世界			(P. 246-P.280) 第６部　現代 第10章　現代の日本と世界			・章の学習を振り返り、時代の変化を絵に表す ・国際社会で課題になっていることをあげ、日本ができることを考えて文章にまとめる。グループやクラスで話し合う。																		

	学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
								1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
ア 知識・技能の習得	(ｱ) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 我が国の民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する	冷戦、我が国との民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解する	(P.256-P.257) (5)インドも中国も来なかったー日本の独立ー	・P257　第二次世界大戦後、アジアの国々は次々に独立を達成した。 【D-1歴史認識】			・第二次世界大戦後のアジアの主な独立国の地図										●							
	(ｲ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応を取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させる。	(P.274-P.275) (14)3月11日午後2時46分ー大震災とグローバル化ー	・P273　EUやASEAN,APECなどの地域統合、地域経済協力の動きが進み始めている【B-1相互依存】 ・P275　東日本大震災により多くのメーカーが一被災し部品の供給が出来なくなって製造が滞り、海外の製造業にも影響が及んだという、グローバル化時代の経済のしくみや課題が明らかになった。【B-1相互依存】 ・P277　グローバル化がすすむなかで、裕福な人と貧しい人の生活の格差が広がった。世界では貧困や難民、感染症・災害・気候変動などが大きな問題となり、各国が協力しないと解決できないこれらの問題に取り組むため、国連でSDGsを決めた。【B-1相互依存】【C-2環境】【C-4開発】 ・日本は世界の国々に、資金の援助や技術者の派遣を行っている。非政府組織も各地で活動している。【A-2文化交流】【B-1相互依存】【C-4開発】			・P277　カタールからの資金援助で再建した女川町の水産加工施設の写真 ・P277　JICAが支援するホンジュラスの貧困脱出計画の写真 ・P277　日本のNGOの支援で作られた用水路を利用するアフガニスタンの人びとの写真		●		● ● ○ ○			○		● ○					・JICAが支援するホンジュラスの貧困脱出計画の写真			・日本のNGOの支援で作られた用水路を利用するアフガニスタンの人びとの写真 ・カタールからの資金援助で再建した女川町の水産加工施設の写真
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｱ) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の要するを多面的・多角的に考察し、表現する	国際社会への復帰については、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを扱う。																						
	(ｲ) 歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する	国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国歌を超えた地域統合、地球環境問題とのその取組など様々な課題が存在していることとともに、解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気づく。 歴史の内容と私たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心を持つことができるように工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できるようにし、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことが出来るようにする。 歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付く。																						
	その他（見開きページ）		(P.54-P.55) 世界を結ぶ交通手段	・P54　13世紀ごろの世界を結ぶ交通手段のイメージを、世界地図上で表現する。【B-1相互依存】			・交通手段として、バイキングの船、ラクダ、ダウ船などの写真				●													
			(P.246-P.247) 今、世界の子どもたちは	・P246　現代社会で、統の規制を訴えたり、子どもの権利を守る活動を行ったりする、社会の課題に取り組んでいる子どもたちを紹介する【C-1人権】【C-2環境】【C-3平和】【C-4開発】			・社会の課題に取り組んでいる子どもたちの写真						○	○	○	●								

教科書における国際教育関連記載事項抜き出しリスト

社会・歴史的分野

⇒歴史的な見方・考え方：社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること

※教科書記載事項の列の【】内は、その抜き出したトピックが当てはまる「国際理解教育の実践的枠組み」の分類を表す。その中で下線がついているものが主な分類、下線がないものは付随的な分類となる。

学習指導要領		学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
								1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
A 歴史との対話																								
(1) 私たちと歴史																								
(2) 身近な地域の歴史																								
B　近世までの日本とアジア																								
(1) 古代までの日本			(P.19-P.68) 第１部 第1章　原始と古代の日本																					
ア 知識の習得	(ｱ) 世界の古代文明や宗教のおこり 世界の各地で文明が築かれたことを理解する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともいに大きく捉えさせる。	(P.42-P.43) 8 世界の宗教と日本	・P42 宗教について、世界三大宗教【A-1文化理解、D-1歴史認識】		・世界の三大宗教はどのような特色を持っているか。	・三大宗教のおこり・仏教の広がりの地図、仏教、キリスト教、イスラム教の史跡の写真、現代の世界の宗教の信者の割合	●									○							
	(ｲ)古代の文化と東アジアとの関わり 仏教、仮名文字など国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する	国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるようにする。 仏教の伝来とその影響については、大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付く。	(P.40-P.41) 7 大和朝廷と東アジア	・P41　朝鮮半島や中国から日本に移り住んだ帰化人（渡来人）が大陸の文化を数多くもたらした。役人として調停に使えたり、漢字などの新しい知識や技術を教えた。【D-1歴史認識、A-1文化理解】 ・6世紀前半に、百済から仏教が伝来した。朝廷では、仏教をどうあつかうか議論があった【A-1文化理解】		・古代の日本は中国や朝鮮半島からどのような影響をうけたか。		○ ●									●							
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｱ) 古代文明や宗教のおこり、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化を多面的・多角的に表現し、考察する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。																						
(2) 中世の日本																								
(3) 近世の日本																								
				（歴史ズームイン） ・P209　欧米諸国から「お雇い外国人」として、クラーク、ナウマン、バーマーなど多くの専門家を政府機関や学校に招いた【B-1相互依存、A-2文化交流】			・クラーク、ナウマンの写真 ・おもなお雇い外国人の業績表		○		●													
C 近現代の日本と世界																								
(1) 近代の日本と世界			(P.215-P.256) 第5章　二度の世界大戦と日本																					
	(ｶ)第二次世界大戦と人類への惨禍 昭和初期から大事に世界大戦の就活までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きなどをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する	第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、対戦が人類全体に参加を及ぼしたことを理解する。 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると気付かせる。	(P.232-P.256) 第２節　第二次世界大戦終結までの日本と世界	・P242 日本海軍はハワイの真珠湾を攻撃し、マレー半島に上陸した日本陸軍もイギリス軍を破って南下し、米英に宣戦布告し大東亜戦争と名付けた（戦後は太平洋戦争）【D-1歴史認識】		・太平洋戦争はどんな戦争だったか ・太平洋戦争中に日本がアジアにあたえた影響について、説明する	・P241　杉原千畝と樋口季一郎の経歴・写真 ・太平洋戦争の展開図									●							
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｱ) 政治や社会の変化、外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する	世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国の国民が大きな戦火を被ったことなどから、「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」に気づく。																						
(2) 現代の日本と世界			(P.257-P. 289) 第６章　現代の日本と世界																					
ア 知識・技能の習得	(ｱ) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 我が国の民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する	冷戦、我が国との民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解する	(P.264-P.265) 80　朝鮮戦争と日本の独立回復	・P265　大戦後、アジアやアフリカでは多くの独立国が生まれた。【D-1歴史認識】		・冷戦は世界と日本をどのように変えていったか。											●							
	(ｲ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応を取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させる。	(P.278-P.279) 85 地域紛争とグローバル化 (P.280-P281) 86 日本の現状とこれから	・P278　平和維持活動への日本の参加、サミット・EU、APECなどの枠組の設立というグローバル化、経済格差（南北問題）や地球温暖化への対応という課題【B-1相互依存】【C-2環境】【C-3平和】【C-4開発】 ・外交には他国と協調する精神と同時に我が国の立場や国益を守ろうとする姿勢が必要、オリンピック・パラリンピックや万博の開催が国際交流の場として期待されている、国内の問題を解決するとともに、世界中の人々が平和で幸せに暮らしていけるよう国際貢献することが求められる【A-3多文化共生】【B-1相互依存】		・冷戦後の国際社会の課題にどう取り組むか ・地域紛争のようすとグローバル化の進展について、具体的な事例をあげてまとめ、自分の考えを発表し、話し合う。 ・これからの世界で日本や日本人の果たすべき役割について考える	・国連通常予算の国別分担率の円グラフ ・ペルシャ湾で機雷の処理にあたる海上自衛隊の写真 ・オリンピック・パラインピック・万博の説明（ポスター等） ・ルワンダで井戸の修理をする日本人青年海外協力隊員の写真			●	●			○	○	○					・ペルシャ湾で機雷の処理にあたる海上自衛隊の写真		・ルワンダで井戸の修理をする日本人青年海外協力隊員の写真		

学習指導要領		学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材		A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択				JICA関連記載				その他（JICA以外）
									1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加		ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ｳ) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の要するを多面的・多角的に考察し、表現する	国際社会への復帰については、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを扱う。																								
	(ｴ) 歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する	国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国歌を超えた地域統合、地球環境問題とのその取組など様々な課題が存在していることとともに、解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気づく。 歴史の内容と私たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心を持つことができるように工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できるようにし、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことが出来るようにする。 歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付く。																								

教科書における国際教育関連記載事項抜き出しリスト

社会・歴史的分野

⇒歴史的な見方・考え方：社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること
当教科書の分類：1．時期や推移　2．比較　3．関連

※教科書記載事項の列の【】内は、その抜き出したトピックが当てはまる「国際理解教育の実践的枠組み」の分類を表す。その中で下線がついているものが主な分類、下線がないものは付随的な分類となる。

学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）国際協力・援
							1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	
A 歴史との対話																							
(1) 私たちと歴史																							
(2) 身近な地域の歴史																							
B　近世までの日本とアジア																							
(1) 古代までの日本		(P.18-P.59) 第２章　原始・古代の日本と世界			奈良時代と平安時代の貴族の服装、文字の変化を見て、古代の二本で服装や文字についてどのような変化が起こったのか読み取り、なぜ起こったのか説明する。 ・原始、古代の時代の特色を考える歴史新聞をまとめる。																		
ア　知識の習得 (ｱ) 世界の古代文明や宗教のおこり 世界の各地で文明が築かれたことを理解する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともいに大きく捉えさせる。	(P.20-P.29) 1節　人類の出現と文明のおこり	・P28　文明がおこった地域で生まれた宗教は、のちにより多くの人々に信仰されるようになった。三大宗教についての説明【A-1文化理解、歴史認識】			・三大宗教に関連する写真（岩のドームと「嘆きの壁」、イエスの背規模、釈迦像、シヴァ神、慈恩寺の大雁塔、サーンチーの仏塔、イエスの絵） ・宗教のおこりと広まりの地図	●									○							
(1)古代の文化と東アジアとの関わり 仏教、仮名文字など国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する	国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるようにする。 仏教の伝来とその影響については、大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付く。	(P.38-P. 43) 3節　大帝国の出現と律令国家の形成	・P41　朝鮮半島から伝わった仏教の信仰が広まり、日本で最初の仏教文化がおこった（飛鳥文化）【A-1文化理解】 ・飛鳥文化には、朝鮮半島や南北朝時代の中国の文化が大きく影響しているほか、遠く西アジア・ギリシャなどに由来する文化の影響も見受けられる【D-1歴史認識、A-1文化理解】			・7世紀の初めごろの東アジアの地図 ・法隆寺金堂の釈迦三尊像、日本の弥勒菩薩像と新羅の弥勒菩薩像の写真	● ○									●							
イ　思考力・判断力・表現力等の習得 (ｱ) 古代文明や宗教のおこり、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化を多面的・多角的に表現し、考察する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。																						
(2) 中世の日本																							
(3) 近世の日本																							
C 近現代の日本と世界																							
(1) 近代の日本と世界		(P.208-P. 253) 第６章　二度の世界大戦と日本			・人々の政治参加や有権者数の変化についてどのようなことが言えるか説明する。 ・日露戦争から二度の世界大戦を通して、戦争のあり方の変化を説明する。それぞれの戦争が人々の位に与えた影響を考え、大戦期がどのような時代だったかを表現し、理由を説明する。 ・戦後の子どもの思いや生活の変化を予想する。																		
(3)第二次世界大戦と人類への惨禍 昭和初期から大事に世界大戦の就活までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きなどをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する	第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、対戦が人類全体に参加を及ぼしたことを理解する。 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると気付かせる。	(P. 240-P.253) 4節　第二次世界大戦と日本の敗戦	・P242　日本がインドシナ南部に進行すると、日本は経済的に孤立状態となり、日米交渉が決裂し、日本陸軍がマレー半島に上陸し、海軍はハワイのン真珠湾を奇襲攻撃し、太平洋戦争が始まった。【D-1歴史認識】			・P239　杉原千畝の功績について ・P243　太平洋戦争の地図									●							
イ　思考力・判断力・表現力等の習得 (ｱ) 政治や社会の変化、外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する	世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国の国民が大きな戦火を被ったことなどから、「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」に気づく。																						
(2) 現代の日本と世界		(P.254-P. 289) 第７章　現代の日本と世界			・日本が戦後に国際的地位を向上させる上で要因として大きい順にできごとやことがらを記入したカードを並べ、周囲の人となぜその順位にしたのか説明する。 ・現代がどのような時代かを表現し、その理由を説明する。 ・国際連盟が機能しなくなった理由について話し合う。 ・国際連合の本部前のモニュメントに込められたメッセージについて話し合う。																		

	学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）国際協力・援
								1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	
ア 知識・技能の習得	(ｱ) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 我が国の民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する	冷戦、我が国との民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことを理解する	(P. 256-P. 263) 1節　日本の民主化と冷戦 (P.264-P.275) 2節　世界の多極化と日本	・P261　アジアやアフリカの29か国の代表が、アジアアフリカ会議を開いた。しかし平和の実現と政治・経済の安定は難しく、紛争や飢餓などの問題が残された【C-3平和】【C-4開発】 ・P265　東南アジア諸国連合や、ヨーロッパ共同体など、地域の安定と経済発展のために協力する動きも強まった【B-1相互依存】			・P261 第二次世界大戦後に独立した国の世界地図				●				○	●									
	(ｲ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応を取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させる。	(P.276-P.289) 3節　冷戦の終結とこれからの日本	・P276　冷戦後の世界では、人・物・資本が国境を越えて移動し、各地が地球規模で相互に関係し合うグローバル化が進んだ【B-1相互依存】 ・国連は国連平和維持活動を世界各地で展開してきた。しかし民族や宗教の対立などに起因する深刻な地域紛争は、アフリカなど各地で現在も続いている【C-3平和】 ・P281　インターネットの利用が広まると、大量の情報を双方向的にやり取りできるようになり、日本でも世界でも人々の生活は大きく変わりつつある【B-2情報化】 ・P282　グローバル化や情報化の進展により、国・地域どうしの相互依存の関係がますます強まり、世界は一体化している。【B-1相互依存】 ・日本に住む外国人は増えており、さまざまな人が暮らしやすい社会にしていくことが求められる【A-3多文化共生】【A-1文化理解】 ・地球規模の環境も多くの課題を抱えており、国の枠組みを超えた国際的な対策が進められており、日本も世界の取り組みに貢献している【C-2環境】 ・世界の平和と、あらゆる国や地域の人々との平等なつながりを求めて、いかに行動するかが問われている【A-3多文化共生】【C-3平和】			・国連平和維持活動の展開地域と、日本の協力地域の世界地図 ・紛争地域で手当てをする国境なき医師団の写真 ・子ども環境サミットでメッセージを発表する世界各国の子どもたちの写真	○		● ●	● ●	●		●	● ○					・国連平和維持活動の展開地域と、日本の協力地域の世界地図				・紛争地域で手当てをする国境なき医師団の写真
	(ｱ) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の要するを多面的・多角的に考察し、表現する	国際社会への復帰については、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを扱う。																						
イ 思考・判断力・表現力等の習得	(ｲ) 歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する	国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国歌を超えた地域統合、地球環境問題とのその取組など様々な課題が存在していることとともに、解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気づく。 歴史の内容と私たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心を持つことができるように工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できるようにし、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことが出来るようにする。 歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付く。																						

教科書における国際教育関連記載事項抜き出しリスト

社会・歴史的分野

⇒歴史的な見方・考え方：社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること

当教科書の分類：1．推移　2．時期や年代　3．相互の関連　4．比較

●：教科書記載のトピックが主に当てはまる分類（一つのトピックにつき一つのみ）

〇：教科書記載のトピックが関連のある付随的分類（一つのトピックに何もつかない場合もあれば、複数つく場合もある）

※教科書記載事項の列の【】内は、その抜き出したトピックが当てはまる「国際理解教育の実践的枠組み」の分類を表す。その中で下線がついているものが主な分類、下線がないものは付随的な分類となる。

学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
							1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
A 歴史との対話																							
(1) 私たちと歴史																							
(2) 身近な地域の歴史																							
B　近世までの日本とアジア																							
(1) 古代までの日本		(P. 13-P.57) 第2部　歴史の大きな流れと時代の移り変わり 第1章　古代国家の成立と東アジア			1．章の問い「古代の国が成立するために重要なことは何か」について自分の考えを整理し、最も重要だと考えることを選ぶ。歴史的な見方・考え方を働かせてその理由を考える。 2．章の問いの答えをグループで話し合う 3．この時代の特色を理由とともに説明する。																
ア　知識の習得 (ア) 世界の古代文明や宗教のおこり 世界の各地で文明が築かれたことを理解する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。 「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともいに大きく捉えさせる。	(P. 13-P.23) 第1節　古代国家の成立と東アジア	仏教・キリスト教・イスラム教の誕生(P.22)【A-1文化理解、D-1歴史認識】	4．比較		・三大宗教の遺跡の写真 ・三大宗教の開祖の概要 ・宗教の誕生と広まりの世界地図	●									〇							
(イ)古代の文化と東アジアとの関わり 仏教、仮名文字など国際的な要素を持った文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する	国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるようにする。 仏教の伝来とその影響については、大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付く。	(P.34-P. 47) 第３節　中国にならった国家づくり	日本に仏教、仏像、経典がもたらされた。中国から日本に伝わった仏教美術や建築には中国と交流のある西アジアやインドの影響が見られる(P.37)【D-1歴史認識、A-1文化理解】	3．相互の関連 4．比較		・日本、中国、朝鮮半島の仏像の比較	〇									●							
イ　思考力・判断力・表現力等の習得 (イ) 古代文明や宗教のおこり、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、古代の社会の変化を多面的・多角的に表現し、考察する	「世界の文明」については、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、共通する特徴に気付かせる。																						
(2) 中世の日本																							
(3) 近世の日本																							
C 近現代の日本と世界																							
(1) 近代の日本と世界		(P.210-P. 255) 第５章　二度の世界大戦と日本			1．章の問い「『近代化』が進展した日本で、世論が求めたものは何か」に対して自分の考えを整理し、世論が大きく転換した時期を一つ選び、なぜその時期を選んだのか理由を説明し、どの歴史的な見方・考え方を働かせたのかを明示する。 2．章の問いについてグループで話し合う。 3．この時代の特色を理由と共に説明する。																
(h)第二次世界大戦と人類への惨禍 昭和初期から大事に世界大戦の就活までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きなどをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する	第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過と、対戦が人類全体に参加を及ぼしたことを理解する。 国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であると気付かせる。	(P. 242-P. 255) 第４節　第二次世界大戦の惨禍	日本は南部に軍隊を進め、アメリカ等は日本を経済的に孤立させようとした。日本はマレー半島に上陸し、ハワイの真珠湾を攻撃し、米英に宣戦布告し太平洋戦争が始まった(P.245-246)【D-1歴史認識】			・ユダヤ人に対してビザを発給した杉原千畝、満州国の許可を得ずに列車を手配した樋口季一郎のコラム ・アジアと太平洋で起こった戦争の世界地図										●							
イ　思考力・判断力・表現力等の習得 (イ) 政治や社会の変化、外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する	世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする。また、我が国が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、我が国の国民が大きな戦火を被ったことなどから、「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であること」に気づく。																						
(2) 現代の日本と世界		(P. 256-P. 287) 第6章　現在に続く日本と世界			1．章の問い「現代の日本社会を形づくる画期となった出来事は何か」に対して、出来事を9つの取り上げてカードに書き、重要度が高いと考える順に並べる。その際に歴史的な見方・考え方を働かせて問いの答えを考える。 2．章の問いの考えをグループで話し合い、20年後の日本を考えた際に重要度を維持したいこと、変えたいこと、新しく付け加えたいことを話し合う。 3．この時代の特色を理由とともに説明する。																

	学習指導要領	学習指導要領解説	教科書対象範囲	教科書記載事項	見方・考え方	「見方・考え方」を働かせる「問い」または「学習活動」	教材	A 多文化社会			B グローバル社会		C 地球的課題				D 未来への選択			JICA関連記載				その他（JICA以外）
								1 文化理解	2 文化交流	3 多文化共生	1 相互依存	2 情報化	1 人権	2 環境	3 平和	4 開発	1 歴史認識	2 市民意識	3 社会参加	ODA・国際援助	専門家	青年海外協力隊	国内事業等	国際協力・援助
ア 知識・技能の習得	(ア) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 我が国の民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する	冷戦、我が国との民主化と再建の家庭、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きがうまれた。 アジア・アフリカ会議が開かれ、植民地支配への反対や平和共存の路線が確認された。一方で、北半球に多い先進国と南半球に多い発展途上国との経済格差が表面化し、のちに南北問題と呼ばれるようになった。(P.265)【C-3平和】【C-4開発】		第二次世界大戦後に植民地支配から解放された国々が団結し、冷戦からの中立を求める動きがうまれた。アジア・アフリカ会議が開かれ、植民地支配への反対や平和共存の路線が確認された。一方で、北半球に多い先進国と南半球に多い発展途上国との経済格差が表面化し、のちに南北問題と呼ばれるようになった。(P.265)【C-3平和】【C-4開発】											○	●								
	(イ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する	高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応を取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させる。		・経済大国となった日本は政府開発援助（ODA）が急増し、1990年代には世界最大の援助国となった。日本は貿易とODAと資本投資によって、東アジアや東南アジアと経済的な結びつきを強め、東南アジアの経済発展がより一層促された(P.272)【B-1相互依存】 ・国家という枠組みを超えて世界が相互に依存を強め、一体化に向かうグローバル化の動きが強まった(P.278)【B-1相互依存】 ・日本は国連平和維持活動に参加した(P.279)【B-1相互依存】【C-3平和】 ・日本はODA,非政府組織、ボランティアなどの援助を行っており、技術力や経験を生かし、さまざまな分野で貢献することが求められる(P.282)【B-1相互依存】【C-4開発】 ・地球温暖化への対応やエネルギー確保など、持続可能な社会の実現を考える必要がある(P.283)【C-2環境】 ・日本の知恵や経験を世界に発信、共有することで、共に生きる社会を築き、世界に貢献することができる(P.283)【A-3多文化共生】【C-3平和】		・P278日本の漫画のコスプレをする外国人の写真 ・東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場の新国立競技場の写真 ・京都を訪れる外国人観光客の写真			●	● ○ ○ ●			●	● ○	●								
イ 思考力・判断力・表現力等の習得	(ア) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の要するを多面的・多角的に考察し、表現する	国際社会への復帰については、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを扱う。																						
	(イ) 歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する	国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国歌を超えた地域統合、地球環境問題とのその取組など様々な課題が存在していることとともに、解決するための様々な人々の努力が重ねられていることに気づく。 歴史の内容と私たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心を持つことができるように工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解できるようにし、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことが出来るようにする。 歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢を持つことの大切さに気付く。																						